

23年度年次大会開催 考えて理解する場を提供

日本技術士会山口県支部



あいちの河内支部長

日本技術士会中国本部
山口県支部（河内義文支
部長）は7月29日、山口
市のKDDI維新ホール
で「2023年度支部年
次大会および記念講演
会」を開催した。

はじめに河内支部長が

「技術士会は、技術士の活用促進、資質向上と活性化、社会の科学的発展に尽くすことを目的にしている。科学技術的価値を共有する仲間が集まり、情報交換することでエンジニア魂をくすぶる場でもある。今月は大きな行事も行われ、技術的価値のある講演も仕組んでいる。我々エンジニアが自らの頭で考えて理解する、またその場を提供することがこの支部の価値だと考えているので、

イベントに参加してもらいたい」と挨拶した。

その後、22年度の事業報告や23年度の事業計画などが説明された。今年度も、公益的事業の促進・地域社会の発展に寄与、知名度の向上及び技術士の活用促進、資質向上と活性化、会員拡大を基本施策に据える。山口大学大学院の教授を招いてのテクノサロンの開催や宇部高専と徳山高専での倫理教育の支援、小学生を対象にポンポン船

をつくる科学体験教室、防災委員会の行事（現地調査会）、徳山高専での技術士制度・試験説明会などを行うほか、8月に中国本部主催の「地域産学官と技術士との合同セミナー」が山口で開かれるために参加を呼びかけた。

また、23年度から新たに幹事になった森本真吾氏（広報委員会委員、ドポクリエイト）と西本忠章氏（青年技術士交流委員会委員長、山口建設コンサルタント）が紹介された。森本氏は「山口県を盛り上げるためにも頑張りたい」、西本氏は「これまででは、イベントに関わることが少なかったのだからいろいろ関わりたい」と述べた。

年次大会のもよう



年次大会終了後には、やまぐち萩往還語り部の会の古谷眞之助氏による「萩往還の魅力」と題した記念講演会が行われた。萩から三田尻（防府市）を結ぶ萩往還の歴史や概要、残っている遺跡や施設などについて解説したほか、クイズも出題した。